

事業完了報告書（神戸市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和6年5月29日 ～ 令和7年3月15日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 I. 教育課程、教育環境整備に関すること ③中学校教育を実施するに必要な、日本語を母語としない方向けの日本語指導の在り方（教育環境の整備を含む。） ・対象校2校 神戸市立丸山中学校西野分校 神戸市立兵庫中学校北分校
調査研究のねらい	・神戸市の夜間中学在学者は、成人し社会生活を営んでいる生徒や日本で社会生活を営んでいる外国人生徒が大半であり、学習言語の習得が全員十分にはできていない現状がある。また、入学までの様々な就学体験や、10代から80代までの幅広い年齢差からくる学習習得状況の違い（特に高齢の方は覚えることが苦手）など、考慮しなければならない点が多くある。そのため、個人毎・教科毎の学習進捗状況を共通理解し、生徒の実情に合わせた特別の教育課程を全職員による検討の上、編成し、学校長の判断を以て実施する。 ・外国人生徒に対しては、各言語別に教科年間計画を立て、教育課程の内外で日本語習得の支援及び指導を行う。 以上の教育活動を推進するため研究に取り組み、必要な教材を精選・購入し活用する。
調査研究の成果	《 神戸市立丸山中学校 西野分校 》 在籍者23名中18名が外国籍生徒（5か国）であり、日本の公立中学校の教育課程を実施していくうえで、日本語指導が必要不可欠である。 【年間を通して】 ・毎月、全職員で学習指導打ち合わせ会を開き、習熟度と日本語習得状況を勘案して、毎月習熟度別の学級替えを行った。 →生徒個々の学習状況に応じた授業内容の組立ができ、学級の引継ぎ（クラス変更）でも丁寧な情報交換ができた。本年度は初級クラス（来日半年未満程度）に所属する生徒の割合が高く、授業を担当しない教員の動員も必要となった。しかし多くの教員がかかわることにより生徒へ常に目が行き届き、学習効果を高めることにつなげることができた。 ・全職員による学習指導検討会議の開催

	日本人生徒、外国人生徒、中学校既卒生徒、それぞれの学習能力を確認し、習熟度別学級の編成を行った。 ・国語、社会、数学、理科、英語は、それぞれ全校で6つの習熟度別学級を編成し授業を行った。 ・実技科目については、全校1学級で授業を実施。教科担当教員以外の全教員も補助に入った。 ・外国人生徒のために各言語別年間計画を前年度末に作成し、新年度入学状況に合わせ、再検討を行った。 →校内研修の柱を「日本語学習と教科学習のつながり」と位置づけ日本語指導と教科指導の“橋渡し”を各教科で意識して取り組んだ。実際には国籍の異なる生徒が所属するクラスも多数あり、そのため、各生徒の母語を意識し過ぎる取組は避け、それぞれの日本語習得状況に応じて授業内で使用する日本語を授業者が意識して取り入れた。年間計画については、その授業内で示すものとしており、教員間では毎月の教科打ち合わせ会で共有している。 ・外国人生徒に日本語指導を行うため必要な教材を購入し、年間を通じて教育課程内外で使用した。 国語の授業の中において、日本語理解指導教材として「みんなの日本語」を購入し習熟度別に使用した。 習熟度別学級の中でさらに細分化して指導を行うための年間計画を立てた。 ・「みんなの日本語」については、日本語の文法を系統立てて指導するにふさわしい教材として長く本分校で採用し、各教科の学習につなげられることを目標に指導している。ただし、教材内の古い表現等はふさわしいものに修正して授業で使用した。 ・外部の専門家を招いて日本語指導研修を実施した。指導法や最適教材、教育環境のアップデートにつなげることができた。 →本年度は本事業予算からを含め4回の日本語研修（計8日間）において外部講師を招き、職員研修に取り組んだ。従来から依頼している講師には「みんなの日本語」を使用した授業を想定した研修を各学期に依頼し、そのため短いスパンでの授業改善や気づきに生かすことができた。また、北分校教員の研修参加により、普段とは異なる視点の意見などがあり、新たな気づきにつなげることができた。 ・1人一台の学習用パソコンでインターネットからの情報を得て、調べ学習をすすめ、パワーポイントを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを行った。 ・各教科の授業において、デジタル教科書をはじめとする視覚的な教材を効果的に利用することにより、学習内容の理解と定着につなげることができた。 ・多言語の入学案内リーフレットを作成した。 ・中学校を形式卒業した西野分校入学者に対して、本人の学力と
--	---

	進路希望に合わせた学習指導計画を立てた。カリキュラム作成に当たっては、中学校の教育課程を終えているので校長裁量により学齢経過者特例を活用して教育課程を編成した。各科目の習熟度によっては小学校段階からの学び直しが必要であり、その際には、小学校の教科書等を使用し、理解の進み具合に合わせて使用教科書等の学年を随時上げていった。 ・ 入学対象者に合わせたホームページづくりに努め、学習活動の様子を分かり易く伝えるなど、積極的な広報を進めた。 ・ 現在、生徒募集については、市の広報誌への掲載、ポスターの各区役所や公民館での掲示等の啓発活動を行っているが、学内の広報委員会において、夜間中学を取り巻く現状の分析と効果的な広報活動のあり方について議論し、学び直しを必要とする既卒者等への働きかけも含め、地域への広報などより効果的な活動につなげられるよう取り組んだ。 【４月】新入学生徒受け入れ ７月１９日までで２５名 (１年生９名・２年生９名・３年生７名) ・ 全職員による学習指導検討会議の開催 日本人生徒、外国人生徒、中学校既卒生徒、それぞれの学習能力を確認し、習熟度別学級の編成を行った。 【５月（～３月）】 ・ 毎月、全職員で学習指導打ち合わせ会を開き、習熟度と日本語習得状況を勘案して、毎月習熟度別の学級替えを行った。 【７月】 ・ ２２日（月）～３１日（水）１８時～２０時にKICC（神戸国際コミュニケーションセンター）より日本語指導ボランティアを招き、８日間の日本語教室（生徒対象）を実施 ・ ２９日（月）、３０日（火）の１３時～１７時の４時間、日本語教師の三木 千津子氏を講師に迎え、具体的な学習支援方法について研修を実施した。 【８月】 ・ 高等学校進学希望者への補習を開始した。（３月まで） また、夏季授業日に定時制高校３校を招いた「進路学習会」を実施した。 ・ 希望する生徒に個人別補習を実施。（文化祭作品制作を含む） 【９月、１０月】 ・ 定時制高校のオープンハイスクールへ参加した。 【１１月】
--	---

	・ 1 日（金）文化発表会を実施。学習成果を展示と舞台で発表。 本校とは作品展示による交流。ゲストとして、同一敷地内にある太田中学校 1 年生生徒及び教職員を招き、展示作品の鑑賞や、太田中 1 年生による学年合唱、夜間中学生徒の舞台発表を共に鑑賞するなど、夜間中学への理解を深めるとともに、夜間中学生徒は学ぶ意義を実感し、交流を深めることができた。 ・ 1 8 日（月）と 2 2 日（金）の 1 3 時～1 7 時の 4 時間、実用日本語教育推進協会より柿原 美由紀氏（18 日）と鈴木 庸子氏（22 日）を講師に迎え、来日半年以内の生徒への指導方法等について研修を実施した。 【1 2 月】 ・ 全国夜間中学校研究大会に参加し、他の夜間中学との交流を通して見識を深めることができた。 【1 月】 ・ 2 4 日（金）と 3 1 日（金）の 1 3 時～1 7 時の 4 時間、神戸 YWCA から日本語講師の福井 武司氏を迎え、日本語教授法の実践として模擬授業等を取り入れ、研修を実施した。 ・ 次年度教育課程原案編成会議実施（校長、教頭、教務部長） ・ 次年度教育課程の承認（職員会議） ・ 次年度学習指導検討会議（全教員） 【2 月】 ・ 9 日（日）神戸識字交流会へ参加。 ・ 2 8 日（金）作文発表会を開催した。 ・ 入学面談開始 2 月 1 日～7 月 1 8 日 入学資格 中学校未卒者を原則とする。 市内在住者、市内在勤者 市外在住で通学できる者 中学校形式卒業者は、神戸市教育委員会事務局 学校経営支援課学事計画係が対応する。 神戸市外在住者は、神戸市教育委員会事務局学校経営支援課が在住地教育委員会との協議の上で対応。 ・ 入学希望者見学及び面談実施（2 日間） 入学希望者に見学及び面接を実施し、外国人希望者に日本語習得状況を確認する。形式卒業の入学希望者には就学状況と学力について確認する。 ・ 近畿夜間中学校連絡協議会連合作品展へ生徒授業作品を出品。 ・ 教育反省をもとに、次年度の日本語指導および教育環境の検討を行った。 【3 月】
--	---

- ・全教員により次年度学級編成会議を実施。（習熟度別）
- ・1年間の取組を冊子にまとめ、関係各所に発信した。

《 神戸市立兵庫中学校 北分校 》

在籍者12名中8名が外国籍生徒（5か国）であり、日本の公立中学校の教育課程を実施していくうえで、日本語指導が必要不可欠である。

【年間を通して】

- ・毎月、全職員で学習指導打ち合わせ会を開き、個人ごとの学習進捗状況を確認し、各個人に必要な教材を段階的に作成した。
→生徒個人ごとの学習状況に応じた授業や教材により、学習内容の理解と授業を通して日本語の習得につなげていくことができた。
- ・外国人生徒が多く、教員に日本語指導の知識や指導力向上が必要のため「日本語指導に関する校内職員研修」を年4回実施した。
- ・校務分掌に「日本語指導」担当を置く。
- ・日本語指導講師として小川 佐由理氏を招き、希望生徒に対し日本語指導を週2回程度実施した。（始業前）
→継続した指導により、日本語の習得が進むにつれ生徒自身の意欲の向上がみられ、それが教科の学習内容の理解にもつながることができた。
- ・生徒の国籍が様々で、お互いの国の文化を尊重する態度を涵養しなくてはならない。そのため、道徳の時間を核として多文化共生を念頭においた人権教育を更に推進した。
- ・全教員による学習指導検討会議を実施した。
- ・国語、数学は、全校を7学級の習熟度別学級に編成。英語は学年別に3学級ずつの習熟度別学級に編成した。
- ・実技科目については、全校1学級で授業を実施。
教科担当教員以外の全教員も補助に入った。
- ・外国人生徒に日本語指導を行うため、必要な教材をコンピュータで自主作成した。
- ・1人一台の学習用パソコンを使用して習熟度に応じた日本語学習に取り組んだ。
- ・1人一台の学習用パソコンでインターネットからの情報を得て、調べ学習を進め、パワーポイントを用いて資料を作成し、プレゼンテーションを行った。
- ・各教科の授業において、デジタル教科書を効果的に利用することにより、学習理解の一層の定着を図ることができた。
- ・国語科の作文指導に必要な書籍を購入し、指導した。2月の作文発表会（地域にも公開）で、全生徒が成果を発表した。
- ・中学校形式卒業入学者に対して、本人の学力と進路希望に合わ

	せた学習指導計画を立てた。カリキュラム作成に当たっては、中学校の教育課程を終えているので校長裁量により決定した。各科目の習熟度に応じて小学校段階からの学び直しを行った。その際には、小学校の教科書等を使用し、理解の進み具合に合わせ、使用教科書等の学年を随時上げていった。 ・ 現在、生徒募集については、市の広報誌への掲載、ポスターの各区役所や公民館での掲示等の啓発活動を行っているが、学内の広報委員会において、夜間中学を取り巻く現状の分析と効果的な広報活動のあり方について議論し、より効果的な広報活動につなげていった。 【４月】新入学生徒受け入れ ７月１９日までで２２名 (１年生６名・２年生１１名・３年生５名) 【５月 (～３月)】 ・ 毎月、全職員で学習指導打ち合わせ会を開き、個人ごとの学習進捗状況を確認し、各個人に必要な教材を段階的に作成した。また、習熟度と日本語習得状況を勘案して、毎月習熟度別の学級替えを行った。 【８月】 ・ 高等学校進学希望者への補習を行った。(３月まで) ・ 希望する生徒に対して個人別補習を行った。 (文化祭作品作りを含む。) 【１０月】 ・ ９日(水) １８時～２０時２０分 本校体育館にて運動会の実施 生徒、生徒家族、兵庫中学校本校職員、地域住民との交流を深めることができた。 ・ ２５日(金) １７時５分～２０時１５分 文化祭を実施。 地域住民、本校の中学生との交流を図ることができた。 展示物の製作、学年ごとに舞台演目を披露し、学習の成果を発表した。 【１２月】 ・ 定時制高校と連携し、高校説明会を開催した。 ・ 全国夜間中学校研究大会に参加し、他の夜間中学との交流を通して見識を深めることができた。 【１月】 ・ 次年度教育課程原案編成会議実施(校長、教頭、教務部長) ・ 次年度教育課程の承認(職員会議)
--	---

	・次年度学習指導検討会議（全教員） 【2月】 ・7日（金）作文発表会の実施 ・入学面談開始 2月1日～7月18日 入学資格 中学校未卒者を原則とする。 市内在住者、市内在勤者 市外在住で通学できる者 中学校形式卒業者は、神戸市教育委員会事務局 学校経営支援課学事計画係が対応。 神戸市外在住者は、神戸市教育委員会事務局学校経営支援課が在住地教育委員会との協議の上で対応。 ・入学希望者見学及び面談実施（3日間） 入学希望者に見学及び面接を実施し、外国人希望者に日本語習得状況を確認。形式卒業の入学希望者には就学状況と学力について確認した。 ・近畿夜間中学校連絡協議会連合作品展へ生徒授業作品を出品。 ・教育反省をもとに、次年度の日本語指導および教育環境の検討を行った。 【3月】 ・全教員により次年度学級編成会議を行った。（習熟度別）
--	--